

# R5年度 SDGs推進室 活動報告書

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
1	教育	西村 勝志	社会共創学部	男性だけに偏るイベントを避けるためのガイドラインの作成	男性だけに偏るイベントを避けるために、ジェンダー協働推進センターとの連携協働でガイドラインを作成した。このガイドラインは、従来の男性だけに偏るイベントを避け、女性の実質的参加を促進するために考えられる具体策を示すことで、「愛媛大学ダイバーシティ推進ステートメント」に基づいた、個人のアイデンティティの様々な側面に配慮したイベント（シンポジウム・パネル等）の開催を促し、異なる視点と幅広い議論の場づくりに寄与することを目的に定めたものである。	 	
2	教育	西村 勝志	社会共創学部	文系主題科目（『Beyond SDGs ～ポスト2030年の持続可能な未来～』）の開講（全学部2 回生以上対象）	本授業では、次世代を担う学生のみなさんを対象に、①SDGsの17の課題を切り口に、現在の持続不可能な現状を認識してもらうこと、②SDGsにおける169のターゲットに触れ、2030年の先にある未来社会のイメージを見据えてもらうこと、③人類共通の課題を解決するために向かうべき方向性について理解を深めてもらうこと、④学生一人ひとりがどのような生き方をすべきか今後の自分の行動について見つめ直してもらうことを目的としている。（担当者：西村勝志・佐藤哲・小林修・鈴木静・李賢映・松村暢彦・竹下浩子・前田眞）		
3	教育	西村 勝志	社会共創学部	地域レジリエンス学環におけるSDGs概論（必修科目）の開講	VUCA時代における地域のレジリエンスを向上させることに貢献できる人材に求められる基本的な素養として、グローバル目標であるSDGsの基本理念について学ぶことを目的とするSDGs概論科目を必修科目として開講している。（担当者：西村勝志・森脇亮・小林修・佐藤哲・前田眞・松村暢彦・竹下浩子・鈴木静・中原真也）		
4	教育	佐藤 哲	SDGs推進室	東京農業大学における大学院生対象の出張講義	12月6日に東京農業大学大学院地域環境科学研究科の大学院生を対象に、特別講義「Knowledge co-creation partnering with socially vulnerable people: A new horizon of transdisciplinary research」を実施しました。	  	
5	教育	小林 修	国際連携推進機構	松山市SDGs推進協議会が主催する「松山市SDGsコーディネーター養成講座」	松山市SDGs推進協議会が主催する「松山市SDGsコーディネーター養成講座」で「世界でSDGsを達成することの大切さが叫ばれている今「君たちはどう生きるか」と題して特別講義を実施した。	  	
6	教育	小林 修	国際連携推進機構	JENESYS日台オンライン交流事業で講演	JENESYS日台オンライン交流事業にて「日本と台湾の交流をより促進するためのリジェネラティブ観光」と題して講演を行った。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
7	教育	小林 修	国際連携 推進機構	共通教育発展科目「環境ESD 指導者養成」にて、SDGsに関 する授業	共通教育発展科目「環境ESD指導者養成」にて、SDGsに関する授 業を担当（3科目2+4+4=合計10単位）。特に、SDGs-グローカ ル未来創成入門（2単位）	  	
8	教育	小林 修	国際連携 推進機構	東温市役所主催とうおんe- program講座	東温市役所主催東温市役所主催とうおんe-program東温市立拝志 小学校の小学5年生を対象に環境講座「耳を澄ませば～年輪が語りか けること～」を担当した。	  	
9	教育	小林 修	国際連携 推進機構	附属高校高大連携事業「グロー バルスタディーズ I 環境教育 (実習)」の授業	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズ I 環境教育（実 習）」の授業2コマを担当した。授業名は、「SDGsに見る平和と環境」	  	
10	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として 宇和高校にSDGs特別講義 (3回)	愛媛大学高大連携事業として宇和高校にSDGs特別講義を提供（3 回）した。	  	
11	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学高大連携事業として 今治北高校にてSDGs特別講 義	愛媛大学高大連携事業として今治北高校にてSDGs特別講義を実施 した。	  	
12	教育	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県立松山東高校文部科 学省 地域との協働による高等 学校教育改革推進事業(グロー カル型)事業の課題研究	愛媛県立松山東高校文部科学省 地域との協働による高等学校教育 改革推進事業(グローバル型)事業の課題研究を担当。課題研究名は 「Beyond SDGs 2030 - SDGsから見た世界各国の今と、2030年 以降の私たちの暮らし」。1回2コマ、年間20回担当した。	 	
13	教育	中井 俊樹	教育・学生 支援機構	未来思考支援科目の導入	愛媛大学の共通教育カリキュラムに、未来思考支援科目（変化の時 代を生き抜き、世界的課題を理解して地域や国内外に生じる未来に向 けた課題解決に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身 に付けるための科目）を導入した。	 	<a href="#">未来思考支援科目</a>

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
14	教育	和田 寿博	法文学部	和田ゼミ SDGs実践 企画 「SDGs なみかん皮風呂」	<p>愛媛大学法文学部法学・政策学コース専門科目「法政専門演習（経営管理論専攻）」（以下、和田ゼミ）の3回生は、「企業経営とSDGs推進」を主題に研究し、キスケ株式会社（伊予の湯治場喜助の湯松山店）様と連携して、下記の企画を実施しました。以下、企画の概要、計画、実施、総括につき、紹介します。</p> <p>本企画は、コロナ禍3年において活動制限を受けた学生が提案し、学生を主体として活動あり、初めてのこともあって、不備を承知の上で実施し、諸パートの好評を得ました。</p> <p>企画：SDGsなみかん風呂（みかん皮リサイクルによる陳皮風呂）の提供 日時：2023年4月14日（金）・15日（土）・16日（日） 5:00～翌2:00 * オレンジデー 会場：伊予の湯治場喜助の湯松山店（松山市宮田町4&lt;JR松山駅前&gt;） 主催：愛媛大学法文学部和田ゼミ（経営管理論専攻） 学生代表：田中 支援：愛媛大学教授 和田寿博 連携：キスケ株式会社（伊予の湯治場喜助の湯松山店） 入浴施設内の露天風呂（男女。通常は薬草風呂）</p>		
15	教育	山中 亮 井上 昌善	社会共創学部 教育学部	SDGsまち歩きinDOGO（未来を担う子供たちとまちかどのSDGsを見つけよう）	<p>事前計画や指導に当たっては、学部をまたいだ交流が生まれ多様な視点を含むことができる活動を構築することができた。またまち歩き当日は、実際に多様な立場の方々の参加があり、自発的な視点からまち歩き自体を行う行動の変化もみられるようになった。</p>		
16	教育	向 平和	教育学部	ESD概論の開講	<p>大学が独自に設定する科目としてESD概論を開講している。オムニバス形式で、環境教育、食育、歴史など多様な視点でカリキュラムが構成されている。本授業の履修者は100名を超えている。多くの学生がESDについて学ぶことができたと考えられる。</p>		<a href="#">ESD概論</a>
17	教育	富田 英司 井上 昌善 上田 敏子 清田 朗裕 竹下 浩子 藤原 一弘 向 平和	教育学部	放課後SDGs教室・放課後SDGsワークショップ	<p>教育学部富田准教授が中心となって放課後の無料学習の機会として、「放課後SDGsワークショップ」「放課後SDGs教室」を開催した。これは令和5年度ユネスコ活動費補助金（SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業）の採択を受けて行われた。子どもたちは学校でSDGsのことを学び、地域のいろいろな課題に興味をもっており、その興味をアクションへと結びつけるため、会社のような活動を通して、不用品を商品にアップサイクルし、12月に開催のクリスマスマーケットで販売した。</p>		<a href="#">愛媛大学放課後SDGs教室</a> 



No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
18	教育	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	「持続可能性科学」授業を担当	社会共創学部1年生（200名）必修科目「持続可能性科学」で、持続可能性の歴史的背景、概念の発展、幅広いセクターの背景、最先端の理論・議論・方法や学生のシナリオワークショップを担当した。		
19	教育	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	持続可能性関連卒業研究指導	Multispecies Sustainability Laboratoryに所属する4年生4名が2023年度に以下のテーマの卒業研究で様々な側面でもより持続可能な社会の実現に貢献した： 「持続可能な地域猫の管理について」「光汚染の昆虫類に対する影響を低減させた都市照明の考察及び提案」「地域アイデンティティとしての昆虫食－内子町の昆虫食生産のケーススタディー」「社会的実践理論を利用した大豆ミートへのアプローチ分析」		
20	教育	高橋 真	農学研究科	「子供のためのSDGs教室」における動画配信（6月・7月のテーマ）	愛媛大学および愛媛・子どもスポーツ推進協議会主催の「子供のためのSDGs教室」において、6月のテーマ【使用済み天ぷら油でつくる持続可能な燃料とその利用法】および7月のテーマ【使用済み天ぷら油でつくる環境にやさしいチェンソーオイル】の動画授業を配信した。		<a href="#">子どものためのSDGs教室</a>

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
21	研究	西村 勝志	社会共創学部	社会共創学部紀要論文第7巻第1号「社会共創学の学問体系に関する一試論－社会共創の在り方と地域社会への貢献－」P.1-P.12	社会共創学部の基幹的学問である社会共創学は、SDGsとも直結した学問であるが、社会変化に呼応する形で、発展進化していくべき学問でもある。それ故、常に社会共創学を振り返りつつ、学問体系としての存在意義を見つめ直すべきものである。社会共創学自体は、社会を地域ステークホルダーと共に創る学問であることから、より良い社会を実現するために、社会の現状を理解し、課題の抽出を行う必要がある。そこで、どんな課題をだれと解決するのか、が問題となるので、ステークホルダーの選定と、協働の在り方を模索することになる。いわゆる社会共創学の振り返りであって、主体論・目的論・方法論・能力論・対象論、そして共創成果に対する評価論に細分化されたものが、社会共創学の学問体系といえる。	 	
22	研究	西村 勝志	社会共創学部	社会共創学部紀要第8巻第1号 2024年3月「双方向ラーニング・ワーケーションにおける実証的研究（第二弾）－労働環境の改善に向けた働き方改革の推進－	今回の論文は、前回の論文「双方向ラーニング・ワーケーションにおける実証的研究（第一弾）－中島における新たなワーケーションの在り方－」の続編にあたる。前回は、ワーケーションの実態を明らかにするとともに、中島で実施することの意義や新たなワーケーションの在り方を究明するものであった。今回は、中島ワーケーションを労働環境改善の一手段として捉えることで、働き方改革推進の可能性を模索するものである。そこでの本研究の実証的アプローチとしては、中島ワーケーションの実証的研究を実施する中で、まずは、日本における労働市場及び労働者における働き方の現状や背景を探ることとした。それを踏まえて、働き方改革の必要性を整理するとともに、働き方改革推進に内在する課題を取り上げ、解決への道筋を検討することで、働き方改革推進の在り方とワーケーションの可能性を追究した。そうした過程で、労働環境の改善に向けた働き方改革の推進とのためのワーケーションの可能性を試みている。	  	
23	研究	西村 勝志	社会共創学部	ラブ西条コンテスト第1回オープニングイベントでの講演「SDGsビジネスと経営者の資質－」	本講演では、LOVE SAIJO ビジネスコンテストの概要及び、求められるSDGsビジネスの事例を取り挙げるとともに、これからの経営者に必要とされる資質や能力について紹介した。	  	
24	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理プロジェクトにおける国際共同研究の中間評価完了	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム（SATREPS）で、愛媛大学が研究代表機関となって実施している「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト（IntNRMSプロジェクト）」は、5年間の研究機関の3年目となり、4月26日に中間評価を終了しました。中間評価報告書はJSTウェブサイト公開されています。	  	<a href="#">SATREPS</a>

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
25	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	室蘭工業大学の内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」への参加	室蘭工業大学が内閣府事業「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」に採択されました。この事業に主たる共同研究機関として参加し、10月から5年間にわたって、「Society5.0時代の農業における「新たな『学び』×働き方」のショーケースの提示と実証」という研究テーマで共同研究を実施します。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	<a href="#">戦略的イノベーション創造プログラム</a>
26	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	Transformation Conference 2023における研究発表	持続可能な未来の構築のための社会の本質的転換に関する国際研究会議「Transformation Conference 2023」が、オーストラリア・シドニー工科大学において7月12日から14日に開催されました。この会議に参加し、マラウイSATREPSプロジェクトにおけるトランスディシプリナリー研究のアプローチと成果について発表しました。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナシップで目標を達成しよう	
27	研究	佐藤 哲	SDGs推進室	SATREPSマラウイ統合資源管理プロジェクトにおける国際シンポジウムの開催	JST-JICAの地球規模課題対応国際科学技術協カプログラム（SATREPS）において実施している「マラウイ湖国立公園における統合自然資源管理に基づく持続可能な地域開発モデル構築プロジェクト（IntNRMSプロジェクト）」の第1回国際シンポジウム「Co-creation of integrated knowledge and collective actions to promote societal transformation through autonomous innovations」を、11月23日に愛媛大学で開催しました。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任つかう責任 17 パートナシップで目標を達成しよう	
28	研究	小林 修	国際連携推進機構	Withコロナ時代に対応したグローバル・サービスラーニングの開発と教育効果に関する研究	Withコロナ時代に対応したグローバル・サービスラーニングの開発と教育効果に関する実践的研究を実施した。	4 質の高い教育をみんなに 16 平和と公正をすべての人に	
29	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズ・キャンパス：蜜源植物調査・植付け	プロジェクト授業の学生と一緒に、キャンパスの送粉者の支援として蜜源植物の現状を調査し、新たな蜜源植物畑を作った。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
30	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	持続可能なキャンパス管理のフィールド調査	「フィールド実習」の授業にて持続可能なキャンパス管理について他大学・他施設の多種共生や環境配慮に関する取り組みや事例について情報収集・経験交換などを行うため、5月に兵庫県立淡路景観園芸学校、牧野植物園、香川大学に訪問し見学した。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	 



No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
31	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	愛大附属高校課題研究指導	持続可能性に関する愛大附属高校課題研究を2件指導した：「人間と身近な植物との共生の可能性：様々なハーブの活用法から考える」と「多種共生：昆虫食から考える共存の世界」		
32	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	マルチスピーシーズ・キャンパス：持続可能な植生管理の試し	キャンパス内の植生で高コスト・殺虫剤使用などの課題解決に向けて新たな植生管理に取り組んでいる。		
33	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	惑星危機管理ゲーム「Half Earth Socialism」日本語版	地球を持続可能な状態に転換させることに自分で挑戦できるゲーム「Half Earth Socialism」の日本語版を作成している。		<a href="#">Half.Earth.Socialism</a> 
34	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	短編集「Solarpunk Creatures」の出版	サイエンス・フィクションを通して多種共生の未来を描く短編集「Solarpunk Creatures」を2024年1月に出版した。		<a href="#">ソーラーパンククリーチャー</a> 
35	研究	ルプレヒト 笠松・島上 西村・竹下・ 向・ヒディング	社会共創学部 教育学部 国際連携 推進機構	愛大・マルチスピーシーズ・キャンパスの全体運営	様々な教職員の支援をいただきながら、「すべてのいきものが共に創る、すべてのいきものが共生できる」というキャッチフレーズで持続可能なキャンパスの実現を目指す「マルチスピーシーズ・キャンパス」プロジェクトを継続し運営した。		<a href="#">マルチスピーシーズ・キャンパス</a> 
36	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	Sustain Asiaシンポジウム発表「Sustainable Multispecies Cities」	日仏会館のSustain Asiaシンポジウム（10月）で深刻になりつつある環境・社会問題に対して新たな都市の未来像を提案する発表を行った。		<a href="#">国立科学センター</a> 

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
37	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	APUコンファレンスでマルチスピー シーズ観光についての発表	観光を様々な側面から再考するセッションで、「Thinking through tourism with multispecies sustainability principles」について 招待発表を行った。	11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう	
38	研究	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	UnCommon Worlds国際会 議のセッション開催	人間と自然の関係に注目する国際会議「UnCommon Worlds III」 で、「Co-Inhabiting Multispecies Landscapes」というテーマでセッ ションを企画・開催し、「Inhabiting multispecies imaginaries: science fiction anthologies as speculative landscape worldbuilding」の発表を行った。	11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を 15 陸の豊かさも 守ろう	
39	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	松山市SDGs推進協議会にお ける会長	内閣府によるSDGs未来都市に選定された松山市SDGs推進協議会 は、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果の創出を もたすべく、多様な会員企業との連携の下、自律的好循環を構築す るモデル事業などを推進している。引き続き、この協議会の会長として活 動している。	7 エネルギーもみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の 基盤をつくらう 11 住み続けられる まちづくりを	
40	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	西条市SDGs推進協議会にお ける会長	西条市は、令和3年度にSDGs未来都市及び自治体モデル事業として 選定されたことから、SDGs推進協議会を立ち上げた。本協議会は、人 口減少及び少子高齢化が急速に進展する中、多様な関係主体が参 画して切磋琢磨することを通じて未来に向けた競争力を強化するととも に、相互に連携して「持続可能な西条市2050」の実現に向けた各種 課題の解決を図るものである。令和5年2月に任意団体から一般社団 法人化し、代表理事として活動している。	8 働きがいも 経済成長も 11 住み続けられる まちづくりを 17 パートナシップで 目標を達成しよう	
41	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	持続可能な道後温泉協議会に おける会長	持続可能な道後温泉協議会は、道後温泉地域全体のSDGsの取り 組みを推進する「持続可能な道後温泉協議会」で、愛媛大学が主体と なり、地元団体や行政が経費を負担しながら連携し、ひみつジャナイ基 地を活用しながら、持続可能な道後温泉に向けて取り組むものである。 引き続き、その会長として活動している。	8 働きがいも 経済成長も 11 住み続けられる まちづくりを 17 パートナシップで 目標を達成しよう	
42	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	上人坂を考える会のメンバーとし て活動	道後温泉地区にある上人坂は、一遍上人にゆかりのある宝蔵寺のある 坂で、歴史から見て由緒あるエリアであるところから、地域観光の起爆剤 としてその活用を検討する会である。引き続き、そのメンバーの一人として 活動している。	3 すべての人に 健康と福祉を 11 住み続けられる まちづくりを 17 パートナシップで 目標を達成しよう	



No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
43	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	国連大学SDG大学連携プラットフォームへの参加活動	プラットフォームの狙いは、国連大学サステナビリティ高等研究所が主体となって、SDGsに積極的に取り組む意欲ある大学と連携し、国際経済社会の動向を踏まえた大学の取組み（人材育成も含め）を総合的に強化し、国内外に発信するための基盤づくりをすることにあるとしている。これに参加することで、他大学の活動を参考にするとともに、大学間連携で新たな試みを実施すること昨年を引き続いて、この国連大学SDG大学連携プラットフォームに参加活動した。	 	
44	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	「LAVE SAIJOビジネスコンテスト2023」における実行委員長	本コンテストでは、西条市が誇る様々な地域資源やSDGsの取り組みに着目し、ビジネスアイデアで形にすることで、西条市の抱える様々な課題を解決する新たなビジネスプランを県内外から募集し、地域の企業、専門家等のサポートのもとその具体化と実現を図り、将来に継続することを目的として実施するもので、そこでの実行委員長を務めている。	  	
45	社会貢献	西村 勝志	社会共創学部	「えひめSDGsアワード2023」の審査員活動	愛媛県が主体となっている「えひめSDGsアワード2023」は、地元企業が実施しているSDGs活動に基づいた申請内容を様々な観点から一定の評価項目によって審査するものである。引き続き、審査員として審査を行った。	  	
46	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	一般財団法人サンクゼール財団の評議員に就任	12月21日に設立された、「一般財団法人サンクゼール財団」の評議員に就任しました。子どもや生活困窮者等の貧困対策、発展途上国・紛争地帯・難民等への支援と、個人や団体への助成事業を行う財団で、国内外のさまざまな課題への貢献が期待されます。	  	
47	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	琉球大学のSDGs関連事業のアドバイザー	琉球大学が沖縄県の委託を受けて実施している「大学発SDGs社会課題解決型科学技術プロジェクト創出事業」において、社会課題の解決を目指す科学技術プロジェクトの創出と支援を担当するアドバイザーを務めています。	  	
48	社会貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	日本ユネスコ国内委員会・人間と生物圏（MAB）計画分科会委員	日本におけるユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の登録と活用の取組を支援する「日本ユネスコ国内委員会 科学小委員会人間と生物圏（MAB）計画分科会」の調査委員を務めています。	  	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ移動します。)
49	社会貢献	前田 眞	社会連携 推進機構	2023「食」でつながるフェスタ in中四国	食支援活動及び食でつながる居場所の現状と活動意義について学び合うとともに、中四国の行政、社会福祉協議会、見守り活動団体等が集まり、それぞれの活動の成果、課題等を持ち寄り、今後「できていないことができるようにするために」をテーマに話し合いを行った。		
50	社会貢献	前田 眞	社会連携 推進機構	『大洲市SDGs推進本部員 向け「SDGs」講演会』	大洲市においてSDGsの導入部分から、今後設定することとなる政策目標・達成目標・SDGs関連の設定を行うにあたって、「SDGsの基本理念」、「自治体がSDGsに取り組む必要性」「市民等が身近に取り組めるSDGs」等について市職員幹部に向けた講演を行った。		
51	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	さくら幼児園職員向けSDGs研 修	さくら幼児園からの依頼を受け「目の前の未来から～人づくり × ものづくり = 地域の未来づくり～」と題して講演を行った。		
52	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	日本赤十字社愛媛県支部が主 催する「高校生・中学生・小学 生合同トレーニング」にて特別講 義	日本赤十字社愛媛県支部が主催する高校生・中学生・小学生合同トレーニングにて「世界でSDGsを達成することの大切さが叫ばれている今「君たちはどう生きるか」」をテーマに講演とワークショップを実施した。		
53	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	「えひめ森林公園ESDプログラム 実践業務」研修	「えひめ森林公園ESDプログラム実践業務」研修で「地球沸騰時代に森林が果たす役割を再考する～森の中で、森について学び、森のために行動し、そして森と共にある暮らしを実現するには～」と題して講演を行った。		
54	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛銀行主催「ひめ銀ecHoの 森」森林体験講座	愛媛銀行主催「ひめ銀ecHoの森」森林体験講座に参加した親子（子どもは幼稚園児・小学生）を対象にSDGs15に関連して森林体験講座を実施した		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
55	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	内子町主催職員研修（行政 職員対象）にてSDGs研修	内子町主催職員研修（行政職員対象）にて「SDGsをヒントに内子の課題を可能性に転換することを目指す！～内閣府「地方創生SDGsローカル指標リスト」を参考にSDGs内子町指標リストをイメージする～」と題して講演を行った		
56	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県地球温暖化防止県民 運動推進会議	愛媛県地球温暖化防止県民運動推進会議で「地球沸騰時代に入！茹で上がったカエルとしてこれからどう生きるか」と題して講演を行った		
57	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県立医療技術大学にて職 員向けSDGs研修	愛媛県立医療技術大学にて職員向けSDGs研修を「SDGsに取り組む愛媛県立医療技術大学を目指して課題とポテンシャルを見える化する」と題して実施した。		
58	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	他株式会社TAKUBOの社員研 修で特別講演	他株式会社TAKUBOの社員研修で「いまなぜSDGs？～自分と企業の持続可能な成長を実現するため～」と題して特別講演を実施した。		
59	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	TKC（税理士グループ）四国 会50周年記念大会第41回 TKC四国会秋期大学にて講演	TKC（税理士グループ）四国会50周年記念大会第41回TKC四国会秋期大学にて「SDGsを切り口に税理士が未来づくりに果たす新たな役割を探究する！～SDGs関連情報から現状を的確に捉えて未来の社会を思い描くことを通して～」と題して講演を行った。		
60	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県生涯学習センター・コミュニ ティカレッジ 現代・教養コース国 際理解講座	愛媛県生涯学習センター・コミュニティカレッジ 現代・教養コース国際理解講座「SDGsの15年、今年ちょうど中間年！～これまで7年の進捗状況と、これから7年の間に私たちができること～」を担当した。		



No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
61	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛県生涯学習センター第45 回放送県民大学現代教養講 座	愛媛県生涯学習センター第45回放送県民大学現代教養講座「いまこそ、少子高齢化先進国に生きる私たちの力と知恵を未来づくりに～国連SDGsから未来の社会課題を理解する～」を担当した。		
62	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山市SDGs推進協議会が主 催する「SDGsカフェ」にて「台湾・ 台中市に学ぶSDGs未来都市 の取り組み～松山市の未来像を イメージするために～」を企画・実 施	松山市SDGs推進協議会が主催する「SDGsカフェ」にて「台湾・台中市に学ぶSDGs未来都市の取り組み～松山市の未来像をイメージするために～」を企画・実施を行った。		
63	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	今治市が「SDGs宣言オープニ ングイベント」	今治市が「SDGs宣言オープニングイベント」で「今治 バリバリ SDGs～今治だからできるSDGsの取り組みを探そう！～」と題して講演を行った。		
64	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	坂の上の雲ミュージアム大学連 携市民講座にてSDGsに関する 講演	令和5年度坂の上の雲ミュージアム大学連携市民講座にて「坂の上の雲から眺望する世界のSDGsの進捗状況～2030年のゴールとその先の私たち未来について～」と題して講演を行った。		
65	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	愛媛大学地域創生イノベーター 育成プログラム（東予）で SDGs推進について特別講義	愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（東予）で「SDGsの概要と意義地球市民意識が果たす新たな社会づくりを探究する！～SDGs関連情報から現状を的確に捉えて未来の社会を思い描く～」と題して特別講義を行った。		
66	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山市SDGs推進協議会が主 催する「SDGsカフェ」にて「地球 沸騰時代”私たちはどう生き抜く か×未来工房「創造クラス」につ いて企画・実施とファシリテーター を務めた	松山市SDGs推進協議会が主催する「SDGsカフェ」にて「地球沸騰時代”私たちはどう生き抜くか×未来工房「創造クラス」について企画・実施とファシリテーターを務めた。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
67	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	東温市役所職員向けにSDGs 研修を3回、企画・実施	東温市役所職員向けにSDGs研修を「いまなぜSDGs？行政職員としてSDGsを自分事化するグローバル課題を把握して、選ばれる東温市の未来像を考える」と題して3回、企画・実施した。		
68	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	新居浜市SDGs推進プラット フォーム協議会の幹事長	新居浜市SDGs推進プラットフォーム協議会の幹事長として、運営に貢献した。		
69	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	新居浜市SDGs推進プラット フォーム協議会の設立記念講演	新居浜市SDGs推進プラットフォーム協議会の設立記念にて「今、なぜSDGsに取り組むべきか～SDGsは社会のニーズと捉えて新居浜市の未来をイメージする～」と題して講演を行った。		
70	社会貢献	小林 修	国際連携 推進機構	松山市SDGs推進協議会の幹 事長	松山市SDGs推進協議会の幹事長として、各種会議に出席し、松山市協議会事務局とr年型しながら、幹事会の幹事長として運営に貢献した。		
71	社会貢献	和田 寿博	法文学部	SDGsなみかん風呂（みかん皮 リサイクルによる陳皮風呂）	愛媛大学学生有志は、キスケ株式会社（伊予の湯治場喜助の湯松山店）と連携し、SDGs推進、Goal12「作る責任使う責任」の一環として、イベント「SDGsなみかん皮風呂（陳皮風呂）」を実施し、社会に貢献した。また利用者へのアンケートを実施・分析・検討し、学生の研究に役立てる。		<a href="#">SDGsなみかん風呂</a> 
72	社会貢献	向 平和	教育学部	えひめ生物多様性あそまなびフェ ス2023の実施協力	えひめ生物多様性あそまなびフェス2023の実施に協力した。審査委員および高校生のフィールドワークおよび大学生によるワークショップの実施などの企画から関与した。多くの一般市民を含め、高校生・大学生の学びに大きく貢献できた。		<a href="#">愛媛県生物多様性高校生チャレンジシップ</a>
73	社会貢献	竹下 浩子	教育学部	SDGsクリスマスマーケット	昨年度に引き続き子ども達自らが積極的に活動しているグループ同志の交流、活動発表、情報交換の場としてクリスマスマーケットを開催した。300名以上の来場があり大盛況だった。本イベントは、目標12の「つくる責任、つかう責任」をメインターゲットにしていたが、子どもも大人も持続可能な未来について、何が必要か一緒に考えられる機会となり、17「パートナーシップで目標を達成しよう」に深くかかわる内容となった。		<a href="#">2023SDGsクリスマスマーケット</a> 

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
74	社会貢献	松村 暢彦	社会共創学部	のむら復興まちづくりデザインワークショップの支援	平成30年7月豪雨で大きな被害を受けた西予市野村町で復興まちづくりの支援を行っています。のむら復興まちづくりデザインワークショップの企画運営を通して公共空間のデザイン支援をしたり、社会共創学部の学生とARアプリを使った防災まちあるきプログラムを作成しています。	11 住み続けられるまちづくりを	
75	社会貢献	井口 梓	社会共創学部・地域協働センター西条	Goal-17 SDGs Tourism Guide Program –新居浜産官学連携SDGs教育観光プロジェクト	新居浜市観光物産課、及び新居浜市観光物産協会と連携し、7年間の現地調査とディスカッションの成果を踏まえて、新しいSDGs教育観光プログラムの仕組みとプログラムの中心となるコンテンツ（デジタルガイドブック）を制作公開した。「G-17 SDGs Tourism Guide Book」と題したプログラムは、新居浜市の100を超える地域資源をGoal17・パートナーシップの在り方からアプローチする県下初めてのプログラムであり、中・高校の教育（探求学習）や持続可能な観光（インクルーシブツーリズム）と連動した内容となっており、公開以降はマスコミをはじめ地域内外から大変反響があり、次年度実装される予定である。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<a href="#">にいほま紀行</a> 
76	社会貢献	井口 梓	社会共創学部	四国中央市・新宮観光マップ制作プロジェクト	四国中央市政策推進課、新宮・地域おこし協力隊らとアイデア検討・現地調査等で1年間連携し、新宮地区観光マップの20年ぶりのリニューアル制作に取り組んだ。以前の観光マップはレクリエーションレジャー要素に傾倒した内容であったが、今回のマップでは歴史文化（旧街道）、農村景観、寺社信仰、地場産業（和紙・茶生産等）など、地域の文化資源を再評価するものとなっており、SDGsGoal-11地域固有の文化の維持・継承に資する持続可能な観光を目指している。1月のマップ公開以降にはマスコミ6社の取材を受けるなど反響があり、今後は実装結果を踏まえた活用検討を行っていく予定である。	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	<a href="#">四国中央市観光協会</a> 
77	社会貢献	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	松山東高校での講演「人新世を生きる恐怖と希望」	2023年6月に、松山東高等学校の生徒360名を対象に、私たちが直面する様々な持続可能性関連の課題を紹介し、個人だけでなく連携した行動を起こすことでどのように課題を解決できる方法について講演した。	3 すべての人に健康と福祉を 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを増そう 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	



No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど (※文字をクリックすると、該当ページへ 移動します。)
78	社会貢献	ルプレヒト クリストフ	社会共創学部	コミュニカレッジIN内子の講演 「人新世を生きる恐怖と希望」	2023年9月に、内子町の住民20名程度を対象に、私たちが直面する様々な持続可能性関連の課題を紹介し、個人だけでなく連携し行動を起こすことでどのように課題を解決できる方法について講演した。	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
79	社会貢献	松村 暢彦 森脇 亮	社会共創学部 工学部	三瓶東地区事前復興プロジェクト	西予市三瓶東地区で事前復興まちづくりに地域住民とのワークショップの支援を行っています。令和5年度は三瓶地区の祭りを生かした行政、住民、専門家との協働プロジェクトの推進に向けたアクションプランを取りまとめました。	11 住み続けられるまちづくりを	
80	社会貢献	杉森 正敏	農学研究科	森林環境税に関する県民意見交換会	東予・中予・南予の3会場において森林環境税に関する県民意見交換会のコーディネーターを務めた。	15 陸の豊かさも守ろう	
81	国際貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	日本とマラウイの相互交流	「マラウイ統合資源管理プロジェクト」において、マラウイと日本の間の研究者の交流が継続しました。日本からは愛媛大学、東京農業大学、龍谷大学、長野大学、横浜国立大学から延べ13名の研究者がマラウイを訪問し、調査を行いました。マラウイからは7名が短期共同研究員として愛媛大学、東京農業大学で共同研究を行いました。また、3名が東京大学、東京農業大学、鹿児島大学の博士後期課程で研究しています。	1 貧困をなくそう 12 つくる責任 つかう責任 17 パートナシップで目標を達成しよう	
82	国際貢献	佐藤 哲	SDGs推進室	マラウイ大学学長が愛媛大学を訪問	「マラウイ統合資源管理プロジェクト」を通じて連携と交流を深めているマラウイ大学のSamson Sajidu学長が、同プロジェクトの国際シンポジウムの際に愛媛大学を訪問し、11月22日に仁科弘重愛媛大学学長への表敬訪問を行いました。両大学の今後のさらなる交流について意見交換を行いました。	1 貧困をなくそう 17 パートナシップで目標を達成しよう	